

## 平 29 年度 学校評価実施報告書

幼稚園名 ( 西院幼稚園 )

1	幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する <span style="border: 1px solid black;">保育の改善・充実</span>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師との信頼関係を基に、集団の中で、自己を発揮し、自分で行動する充実感を味わうようにする。(保育計画の反省・評価を次の保育に活かすように意識する。主体的に遊ぶ保育環境の構成に努める。)</li> </ul>
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の記録, 週案の反省評価, 事例検討</li> <li>・アンケート「自分から遊びを見つけ楽しんで遊んでいる」 「子どもが楽しんで遊べる環境構成づくりに努力している」</li> </ul>
	<p>各種指標結果 (1回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートでは「自分から遊びを見つけ楽しんで遊んでいる」は97.5%があてはまる。「子どもが楽しんで遊べる環境構成づくりに努力している」97.5%があてはまる。</li> <li>・事例の中では、自ら進んで遊び、自己を発揮し、自分で行動する充実感を味わう姿はあるが、今後は、人との関係の中でとらえることが重要であることが見えた。</li> </ul>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわりたくなる環境, 主体的に遊ぶ環境については意識して取り組んだ。事例を検討する中で、人とかかわってより楽しさを味わう, 主体的に遊ぶためには、コミュニケーションが重要であることが見えてきた。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人とかかわりたくなる環境, 主体的に遊ぶ環境・保育を今後も検討すると共に、人とかかわりの中で自分の思いを伝え、自分で行動する充実感を味わうための言葉やコミュニケーションにも注目する。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の質は高い。一人一人の子どもの課題をよくとらえている。</li> <li>・多忙に見える。事務の軽減などができればよいと思う。</li> <li>・幼小接続の研究は、一幼稚園一小学校一中学校の西院地区には、有用な研究であり、子どもの姿を互いに理解しつつ、主体的な子どもたちを育ててほしい。</li> </ul>
	<p>評価日 10月18日      評価者 学校運営協議会</p>
	<p>各種指標結果 (2回目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの項目からは93%～98%の高い評価を受けている。</li> <li>・幼児の記録, 事例, 研究成果からは、自らを発揮できる人間関係が構築され、自分の思いや考えを伝える喜びや協同する喜びを感じていることが見えた。</li> </ul>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え合い喜びに視点を当てて保育したことで、安心して自分をだし、さらには互いに高め合うような関係性を育むことができた。また、言葉の豊かさも意識して保育したことで、自信をもって、自分の考えを伝えようとする主体的な姿が見られるようになった。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・20名程度のクラスの子どもたちの中では、さらにもっと刺激し合う機会ほしいと思う時もある。4歳児, 5歳児の発達の違いを視野に入れながらも、園全体で、同じ経験を重ねていくことで、イメージや刺激も豊かになり、子どもたちの主体性につながる。</li> </ul>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と幼稚園の連携がよく取れている。降園時間に先生方が保護者と時間をかけてよく話しこまれている。その成果で、保護者の方も十分に子どものことが理解でき、幼稚園との連携が深まっていると思う。先生方の努力の成果と思う。</li> <li>・アンケートからは保護者が子どもの育ちをよくとらえている。これもまた幼稚園と保護者の連携ができていてこそだと思う。</li> </ul>	
評価	評価日 3月5日	評価者 学校運営協議会

2 小学校への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む <span style="border: 1px solid black;">幼小接続の視点</span>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな学びリーディングスクールの研究により、小学校の教員との連携をより密にし、接続期のカリキュラム作成を目指す。</li> <li>・公開保育への参加を他の就学前施設に積極的に呼かけ、幼児期に育てたいことの共通理解を図る。（公開保育を見て、協議に参加してもらう、アンケート等で保育についての意見をもらう）</li> </ul>		
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後検討会の開催</li> <li>・公開保育への他の就学前施設や小学校の参加状況</li> <li>・言葉による伝え合いの事例検討</li> <li>・アンケート「幼稚園・小学校の連携ができています」</li> </ul>		
各種指標結果（1回目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後検討会の開催については、未実施。</li> <li>・公開保育の他の就学前施設や小学校の参加状況は良好。</li> <li>・言葉による伝え合いの事例検討は積極的に行っている。</li> <li>・保護者アンケート「幼稚園・小学校の連携ができています」は、87.5%が当てはまる。</li> </ul>		
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員レベルでの幼小の交流を望む。まずは教員同士が顔見知りになる努力が必要。</li> <li>・年度初めに、教頭と教員が小学校を訪ね話し合いをしたことで、教員の意識も高まった。</li> </ul>	
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の先生との交流ができるよう、教員も積極的に小学校へ出向いていく。</li> <li>・小学校の教員に幼稚園の教育を理解してもらいやすい公開保育の観点や事例の書き方を今後も検討していく。</li> <li>・2学期以降に子ども同士の交流があるので、事前・事後の検討会を必ず幼小で行う。</li> </ul>	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の連携は公立ならではのことで、大変良い取組である。特に西院地域は公立幼稚園・小学校・中学校と幼小中の一貫教育ができる。西院校園連盟を通して、小・中学校への働きかけを学校運営協議会からもしていく。</li> </ul>	
評価	評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の事前・事後検討会の開催については、電話での連絡や、個々人の姿について各先生が出会った時に話し合うことはできた。</li> <li>・公開保育の他の就学前施設や小学校の参加状況は良好。</li> <li>・言葉による伝え合いの事例検討は積極的に行っている。</li> </ul>		

・保護者アンケート「幼稚園・小学校の連携ができている」は、１００％があてはまる。	
自己評価	分析（成果と課題） ・小学校の協力があり、幼小接続について、小学校の教員と共に考える機会を数回もつことができた。 ・小学校で毎年行われる作品展でも、幼稚園の生活をアピールする文章を掲示したことで、小学校の教員が興味をもって見ていた。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今年度は、幼稚園の生活や保育を理解してほしいと取り組んだが、小学校の学習指導要領について学ぶ機会をもち、お互いに歩み寄っていききたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・西院校園連盟のつながりを利用して、地域の子どもたちの育ちを保幼小中でさらに連携して確かなものにしてほしい。 ・小学校の先生と保育や授業を見合い、互いの教育を学ぶ機会を持つことや共に研修する機会をもち幼小接続を深める。 ・今年度は幼稚園の子どもたちがよく小学校に行っていた。小学校との関係が良好なことがうかがえたことは、地域にとっても保護者にとってもよい影響がある。
	評価日 ３月５日
評価者 学校運営協議会	

3 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む	
心と体・生活習慣	
・めあてをもち、リズム遊びや集団で体を動かす遊びをする。 ・隣接する公園・小学校の校庭を活用し、広い場所で子どもの運動欲求を満たす保育の展開 ・保護者に寄り添いながらも、子どもの自立を促す工夫（排泄の自立，食事の自立，規則正しい生活リズムの確立等）	
（取組結果を検証する）各種指標 ・週案の反省評価，子どもの記録 ・小学校や公園に遊びに行った回数 ・健康カードの記述， ・アンケート「望ましい生活習慣が身に付いている」「体を動かして遊ぶことが好きである」	
各種指標結果（１回目） ・週案の反省評価，子どもの記録からは，子どもは体を動かすことが好きで，自らめあてをもって取り組んでいる。（竹馬，一本歯下駄など） ・小学校にも昼休みを利用して昨年より多く遊びに行っている。 ・健康カードの記述は教員と保健職員で共通理解し，保護者啓発に活用している。 ・アンケート「望ましい生活習慣が身に付いている」は６７．５％があてはまる。 「体を動かして遊ぶことが好きである」は９２．５％があてはまる。	
自己評価	分析（成果と課題） ・体を動かす遊びへの意識をもって保育している。
	・健康カードから，気になることにチェックをし，保護者と共有し，改善を図ろうと努力している。 ・生活習慣についての母親の意識は高くなっており，正直に記入している。Ｃ・Ｄ評価は昨年とほぼ変わらない数値であるが，Ｄ評価はわずかながら増えている。「寝る時間が極端に遅い子どもがいる」ことが課題。

	分析を踏まえた取組の改善 ・体を動かす遊びについてはさらに、充実していく。 ・母親の正直さはそのまま認めつつ、子どもの成長にとってという観点で啓発をしていく。 ・公園の活用等は安全管理の体制に努力する。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・健康カードなどからは、早寝早起きについては、保護者の努力もあり実現できていると思うが、保護者の評価や厳しめではないか。 ・公立幼稚園の良さとして、親も子も育つことがある。ぜひ、家庭の教育力も上げる取り組みをしてほしい。	
	評価日 10月18日	評価者 学校運営協議会
各種指標結果（2回目） ・週案等からは、継続してリズム遊びをしたり、体を動かすゲームをしたるすることができていないことが分かる。 ・小学校にも昼休みを利用して昨年より多く遊びに行っている。 ・健康カードの記述は教員と保健職員で共通理解し、保護者啓発に活用している。 ・アンケート「望ましい生活習慣が身に付いている」は75%、体を動かして遊ぶことが好きである」は95%とあてはまるが増えた。		
自己評価	分析（成果と課題） ・運動会以降は、教員の意識が薄くなった。幼児の特性である総合的に活動すること、動と静を組み合わせた保育が大事であることをもう一度研修等で確認する必要があると感じた。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・月案と実際の保育を見直すことで、総合的に保育ができているのかの見直しが必要。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・小学校や公園をどんどん利用して子どもたちの体や心の健康を育ててほしい。子どもたちが元気に遊ぶ姿は地域住民にとっても活気があってよい。 ・保護者と一緒に子育てをしていくという意識を常に幼稚園は忘れないでほしい。	
	評価日 3月5日	評価者 学校運営協議会

4 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する <div>信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え</div>		
・仲間意識や自己有用感が持てる保育を展開 ・互いの思いを伝え合い、認め合う人間関係の構築		
（取組結果を検証する）各種指標 ・子どもの記録、週案の反省評価、事例検討 ・アンケート「気の合う友達がいる」「先生や友達の話をよく聞いている」「自分の気持ちを言葉で伝えている」		
各種指標結果（1回目） ・子どもの記録、事例では、相手の話に対して受け応えることが少ない。 ・アンケート「気の合う友達がいる」85% 「先生や友達の話をよく聞いている」60% 「自分の気持ちを言葉で伝えている」50%		

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿、事例からは相手の話に対しての受け応えが少ないことが見えた。コミュニケーション力の弱さなのか、相手を認める思いが薄いのか今後の保育の中で見ていく。</li> <li>・アンケート結果から話す聴くことに課題がある。また、思いを伝え合うことができにくい子どもいる。人間関係を見直していく。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の子に関心をもち、互いに認め合う保育を心がけ続けていく。</li> <li>・教師が子ども自身に自分の良さが分かる返し方をしていく。</li> <li>・語彙が増える保育（言葉遊びを取り入れる。絵本の読み聞かせをより意識して取り組む）を心掛ける。</li> <li>・気持ちを具体的に聞き、伝えるための語彙を知らせていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感は周りの人との人間関係も大きい。マイナス面を見がちだが、子どもたちも先生もよいところを見ていくことが大事である。</li> <li>・幼稚園の先生は、子ども一人一人に声をかけ、話を丁寧に聞いている。家庭でも親子での話し合う時間を大事にする取組をすることを園から何らかの形で提案していくことが必要である。</li> <li>・幼稚園では人間関係を豊かにしていくことが親子ともに大事である。</li> </ul>
	<p>評価日 10月18日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの記録、事例では、語彙が豊かになり、相手の話に対して受け応えることや、自分の考えを伝えようとする姿が見られる。</li> <li>・アンケート「気の合う友達がいる」88%「先生や友達の話をよく聞いている」78%「自分の気持ちを言葉で伝えている」66%とあてはまるが上昇した。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに認め合う人間関係が構築された。また自分の思いや考えを認めてもらえる安心感もあつてか、積極的に思いを伝えようとする姿が増えた。伝え合うことに焦点をおいて保育してきたが、聞くことについても相手の思いをしっかり聞いて応えようとするようになった。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>認め合える人間関係・仲間意識を今後も意識しつつ、言葉の豊かさや語彙の獲得についても意識をして保育していく。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園は人格形成の大事な時期である。親子で読む絵本も親子がつながるツールとして利用していくことが大事である。ぜひ、来年も絵本の読み聞かせや絵本ボランティアの活動を続けてほしい。</li> </ul>
	<p>評価日 3月5日</p> <p>評価者 学校運営協議会</p>

園独自の項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAや関係機関と連携した子育て支援の充実</li> <li>PTAによる未就園児へのほっこり子育てひろばの開催</li> </ul>

民生委員や学校運営協議会と連携した子育てひろばの開催		
(取組結果を検証する) 各種指標 ・ P T Aによる未就園児へのほっこり子育てひろばの開催回数と参加人数 ・ 未就園児クラスへの登録者数 ・ 未就園児保護者へのアンケート		
各種指標結果 (1回目) ・ P T Aによる未就園児へのほっこり子育てひろば (ぴよぴよカフェ) は2回開催。民生委員と連携した子育て支援は2回開催。 ・ 未就園児クラスへの登録者数は、42名。 ・ 未就園児の保護者アンケートでは、子育てを楽しむ事よりは、情報収集したい思いが強い。		
自己評価	分析 (成果と課題) ・ P T Aは子育て支援に熱心に取り組んでいる。また、幼稚園は、児童館、つどいの広場などとの連携を積極的にしながら、子育て支援に取り組んでいる。 ・ ぴよぴよカフェの開催を積極的にしている。未就園児の保護者に在園児の保護者同士が仲良くつながりを持って活動していることが伝わるとよい。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・ ぴよぴよカフェの開催は無理なく、在園の保護者と未就園の保護者が交流できるように午前中に開催できるように形を替えていくことも必要と思う。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ 子育て支援を通して、公立幼稚園の方針などを丁寧に伝えていくことが大事ではないか。 ・ 保護者が P T A活動を熱心に行っていることは、子どもたちの育ちの中にも良い影響を与えている。学校運営協議会も少しでも P T Aの手助けをしていきたい。 ・ 子育て支援事業の未就園児クラスや、預かり保育などで今後も学校運営協議会が保育補助をしたり、イベントをしたりして協力していく。	
	評価日	10月18日
	評価者	学校運営協議会
各種指標結果 (2回目) ・ P T Aによる未就園児へのほっこり子育てひろば (ぴよぴよカフェ) は、2回開催。民生委員さんと連携した子育て支援は年4回実施。 ・ 未就園児クラスへの登録者数は、65名。 ・ 未就園児の保護者アンケートは、2学期以降が実施していない。		
自己評価	分析 (成果と課題) ・ ぴよぴよカフェは、保護者同士が子育ての話し合いができる場になればと始まったが、中心に動いていただいた P T Aの方には、ご自身のお子さんを預かり保育の利用で待たせるなど、ご苦労をおかけした。 ・ 民生委員さんとの連絡が十分に取れないことがあり、準備等が十分に進まないことがあった。	
	分析を踏まえた取組の改善 ・ P T Aには負担のない方法で今後も未就園児の保護者に何らかの方法でかかわっていただけるようにする。(たとえば幼稚園説明会での幼稚園ツアーのような取り組みでかかわっていただく) ・ 民生委員さんとの連携を密にして子育て支援に取り組んでいく。	

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA のびよびよカフェは，子どもを遊ばせながら，保護者同士が仲良くなるよい取り組みだと思った。事前にお知らせいただき，来年も様子を見に来たり，子どもと一緒に遊ぶことで協力をしたい。</li> <li>・子育て支援で取り組んでいるちびっこプールは施設が老朽化してきていることがある。子どもたちのためにはぜひ続けたい。地域の力を借りて何らかの修繕方法を検討したい。</li> </ul>	
	評価日 3月5日	評価者 学校運営協議会